



記入日	2019 年 1 月 10 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	27 (被災地等校外での防災学習①)
タイトル	歩いて感じて考えよう！修学旅行で行く熊本城復興ツアー (熊本での修学旅行における「災害スタディツアー」)
実践担当者のお名前	青木 (キャリア教育)・雪城 (高 2 主任)
実践にかかった金額	非公開 (個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 5 月 11 日 13 時 00 分～14 時 00 分
実践の所要時間	1 時間
実践の運営側で動いた人の人数	15 人:教員(7)・旅行会社(2)・ガイド(6)
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約 80 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	防災ツアーのガイド

達成目標	【目的・目標】 本校では、5月上旬に九州での修学旅行を実施している。例年、最終日に熊本城と阿蘇山を見学する行程を取っていたが、2016 年 4 月の熊本地震の影響で、熊本のコースを中断していた。昨年から熊本をコースに戻し、新たに「災害スタディツアー」として実施した。 【背景・経緯】 本校では、熊本地震発生直後、生徒が立ち上がり、1 万 7000 回分の携帯トイレを作成して現地に送り、益城町の方から、「在宅避難で途方に暮れていたときに届いて、とても助かった」というご連絡を頂くという経験をした。多くの生徒が、早朝から作業を行い、修学旅行に行けなくなった当時の高校 2 年生も、修学旅行の事前研修に使うはずだった時間を使って、作業を行ったり、募金活動を行ったりした。修学旅行に行った現高校 2 年生は、当時中学 2 年生として一連の活動に携
------	--



	わった。 以上のような背景があり、関わりを持った熊本市を実際に目で見る学習を行わせたいと考えた。送って終わりではなく、その地域を実際に訪れることで、活動に継続性を持たせる機会とした。また、「現地にお金を落とすという支援の形にもなる」というアドバイスも受け、昨年度より、熊本にルートを戻すことになった。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	（１）企画 修学旅行をコーディネートしている旅行代理店に、防災学習コースを含めたプランの提案を依頼した。 ↓ 観光ボランティアガイド「（一社）くまもとよかとか案内人の会」を紹介いただいた。 （２）当日 ①被災直後のドローン空撮映像と CG による熊本城再現映像を視聴（@城彩苑わくわく座） ↓ ②復元途中の熊本城の見学（ボランティアガイドの案内で、熊本城西側の外壁沿いを歩き、天守閣を遠目から見学するコース）	
 		



得られた成果	・空撮映像では、言葉が出ないほど衝撃を受けていた。 ・生徒たちは積極に関心を持って説明を受けたり、質問をしたりしていた。がれきを見て、当時を思い出している様子だった。 ・宮城県での「被災地ボランティア研修」は希望者制であるが、本実践では、学年全員が被災地を訪れて学ぶ経験を持つことができるのがメリットである。 ・災害スタディツアーを通じて、実際に現地を歩くことで、地震の爪痕を実感し、一人一人が防災意識を高めている。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫 苦労 課題	・災害スタディツアーは、昨年度からの企画のため、内容は、旅行代理店に相談しながら試行錯誤している。効果的な事前学習も併せて課題である。	



記入日	2019 年 1 月 4 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	28 [被災地等, 校外での防災学習②]
タイトル	生徒が「参加したくなる」被災地での防災学習の工夫 —第 16 回被災地ボランティア研修《概要編》 (生徒の多様なニーズと活動先の現状に沿う研修の工夫)
実践担当者のお名前	京 (被災地研修企画担当)
実践にかかった金額	約 150 万円 (バス借上・宿泊・食事・保険・印刷・謝礼・ その他活動にかかる費用)
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	①宮城での研修:2019 年 7 月 22 日～7 月 24 日 ②事前事後活動:2019 年 5 月～9 月
実践の所要時間	①3 日間 ②10 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	38 人 (高 1・2 の希望者)
実践を行った都道府県と市区町村	①宮城県亘理町・仙台市・塩釜市・東松島市・名取市・石巻市 ②東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	①宮城県東松島市: 東松島市役所・野蒜市民センター・防災体験型宿泊施設 KIBOTCHA ^{キボツチャ} /石巻市: 南浜のビニールハウス (NPO こころの森)・カリタスジャパン石巻ベース・南浜つなぐ館・こどもセンターらいつ・石巻ニューゼ・パン工房パオ・いしのまき元気いちば/仙台市: 元寺小路教会会議室/亘理町: 荒浜中学校 体育館と校舎・鳥の海ふれあい市場 ②目黒星美学園中学高等学校 マリアホール, 砧公園
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	マンホールトイレの普及活動に取り組む東松島市役所職員 他, 宮城県内で様々な活動に取り組む個人や団体・移動手段 (大型バス借り上げ) と宿泊場所



達成目標	【目的・目標】 試行錯誤しながら手作りで企画する中で、目標や目的を柔軟に変えながら、活動を継続している。現在の主な達成目標は以下の通り。 (1)防災学習を通し、生徒自身の防災意識を高める機会とする。宮城での学びを自分たちの住む地域（首都圏）に還元する意識を育てる。 (2)宮城での活動では、「知る」ことを重視し、その上で自分たちに行える活動を行う。その中で「自分に出来ることは何か」を考える。 (3)復興の現状を直接知ること、自分たちが災害に直面し、当事者になったときに、長期的視点で復興に貢献できる視点を持つ。 (4)一人一人が研修を作るという自覚を持ち、主体性を持って参加することで、より良い研修を作り上げる。その中で、失敗も糧にする。 (5)学外の様々な人との出会いと関わりを通じて、生徒のコミュニケーション能力を高め、学びに向かう力を育てる。 (6)宮城県の魅力を知ってもらい、交流人口を増やす。(実践担当者の出身地であり、この目標も企画継続のモチベーションになっている。) 【背景・経緯】 東日本大震災発生後、生徒から「東北に行って、何かできることをしたい」という申し出があったことがきっかけで、2012年3月から年に2回、研修を実施している。																													
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに																												
	思考力・判断力・表現力	大いに																												
	学びに向かう力・人間性	大いに																												
実践内容・方法	企画の立て方 イメージとしては、以下の表を埋めて、パズルを完成させる感覚。 <table><tr><td></td><td>1 日目</td><td>2 日目</td><td>3 日目</td></tr><tr><td>朝</td><td></td><td>朝食</td><td>朝食</td></tr><tr><td>午前</td><td>—移動—</td><td>活動 3</td><td>活動 5</td></tr><tr><td>昼</td><td>昼食</td><td>昼食</td><td>昼食</td></tr><tr><td>午後</td><td>活動 1</td><td>活動 4</td><td>—移動—</td></tr><tr><td rowspan="2">夜</td><td>活動 2</td><td>ふり返り</td><td></td></tr><tr><td>夕食・宿泊</td><td>夕食・宿泊</td><td></td></tr></table>				1 日目	2 日目	3 日目	朝		朝食	朝食	午前	—移動—	活動 3	活動 5	昼	昼食	昼食	昼食	午後	活動 1	活動 4	—移動—	夜	活動 2	ふり返り		夕食・宿泊	夕食・宿泊	
		1 日目	2 日目	3 日目																										
朝		朝食	朝食																											
午前	—移動—	活動 3	活動 5																											
昼	昼食	昼食	昼食																											
午後	活動 1	活動 4	—移動—																											
夜	活動 2	ふり返り																												
	夕食・宿泊	夕食・宿泊																												



	○下見と打ち合わせ（4月末～5月GW中・6月末） 1回目は「活動探し」、2回目は「具体的打ち合わせ」を行った。 募集～出発までの流れ ①参加者募集（4月下旬）…高1・2に募集要項を配布 過去最高の60人以上の応募があったため、初めて参加者の選抜を行った。（志望理由書とくじ引き） ②オリエンテーション（5月～7月） お昼休み（15分）を使って、係決めや連絡等を行う。 ③事前研修（7月中旬～下旬） (1)プレゼンテーション講座 (2)防災公園でのマンホールトイレ組み立て体験（砧公園）
 	研修当日 7月22日（月） マンホールトイレ組み立て体験と研修（東松島市） 被災地取材を続ける新聞記者による研修 火災発生による避難訓練 防災教育体験宿泊施設キボッチャに宿泊 7月23日（火） 東松島市長表敬訪問（寄附を渡す） NPO 法人こころの森のビニールハウスでの作業 コース別研修（地域住民との交流会・まちづくりに取り組む団体のワークショップ・新聞社訪問・語り部） 7月24日（水） 亘理町立荒浜中学校との交流会
得られた成果	参加者が多く、試行錯誤して企画をしたが、全体的に満足度の高い研修になった。多い生徒では5回連続で参加し、卒業してからも続けて宮城を訪れる生徒もいる。多感な中高生が参加したくなるプログラム作りの経験をさらに一歩深めることができた。天候になかなか恵まれず、屋外の活動で苦労した場面もあったが、生徒たちは前向きに活動に取り組み、それぞれが防災意識を高めていた。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	○多様な関心・ニーズに応える工夫 参加者が多い分，研修に期待するものもそれぞれであることから，活動への関心が高まるように，各コースにネーミングをつけた。 ボランティアコース …カリタスジャパン石巻ベースでの地域住民との交流会 新聞発信コース&復興支援ビジネスコース …石巻日日新聞が運営する石巻ニューゼの見学と震災講話 手作りパン工房パオの訪問 まちあるき未来コース …公益社団法人 3.11 みらいサポートいしのまきの震災学習プログラム（語り部と歩く 3.11）を利用 復興まちづくりコース …ISHINOMAKI 2.0 での研修 こどもセンターらいつでのまちづくりワークショップ ○アンテナを張った情報収集が企画のカギ 本校では，旅行代理店に頼らずに企画しているため，常に情報収集をしている。常にアンテナを張って情報収集をし，ニュースやインターネットなどで気になる情報を見つけたら，すぐに連絡してみるという行動力が，企画に結びつく。 ○「学習」と「活動」のバランスの苦労 「目に見えて満足感の得られるボランティア活動をしたい」というニーズが生徒の中にあるが，実際は短期間で生徒の出来ることは限られている。生徒の思いを大切にしながらも，現実も伝えるようにしている。数日の活動の中で一喜一憂するのではなく，何ができるか考える第一歩にするように指導している。一方で，活動先のニーズに応じながら，生徒が地域に貢献できる活動の機会も常に探している。 ○失敗こそチャンス視点転換 生徒が張り切って活動しようとしても，失敗したり，思うようにいか	



	ないこともある。「うまくいかなかった時」に教員はすかさず「良かったね!」と声かけをして、生徒の視点の転換を図るようにしている。生徒が失敗をバネに大きく成長する姿を見ることも、教員の活動継続のモチベーションになる。また、「過去の先輩の失敗」を予め公にすることで、生徒に望ましい活動態度について考えてもらっている。 ○活動の意義の模索 「なぜ、東京の女子中高生を被災地に連れて行くのか」、自問自答しながら企画を続ける中で、前述したような「達成目標」が見えた。以前、教員は「どのくらい生徒を被災地の役に立たせられるか」を意識しがちであった。発想を転換し、「いつか被災する可能性のある生徒が学ぶ機会」「生徒が自分がこれから何をすべきか、何ができるかを考える第一歩になる活動」と位置づけたところ、腑に落ちるものがあり、企画しやすくなった。単に「研修」として受け身にならないように「ボランティア研修」という名称にしているのも工夫の一つである。
--	---

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター
関係者の説明	宮城県へのボランティアツアーの円滑な実施や震災の経験についての学習・研修を目的として宮城県を訪れる観光の支援を行っていくことを目的に、宮城県が設置しているセンター。学校の旅行目的に合わせて、様々な情報提供やご提案、サポートをさせていただきます。実践担当者が、年に2回の研修実施に難しさを感じていた一昨年、「東北教育旅行セミナー」で知り合い、サポートを受けて無事に研修が続けられています。
関係者の連絡先	https://www.pref.miyagi.jp/site/kankou/shien-center.html
関係者の名前・団体名	「東北教育旅行セミナー」主催：(一社)東北観光推進機構
関係者の説明	学校と旅行会社を対象としたセミナーで、東京では例年、7月下旬に開催されています。「“こころ”と“いのち”の教育旅行・東北まなび旅」をキャッチフレーズに、事例発表や学習メニューの情報などを豊富に仕入れることができ、非常に有益です。



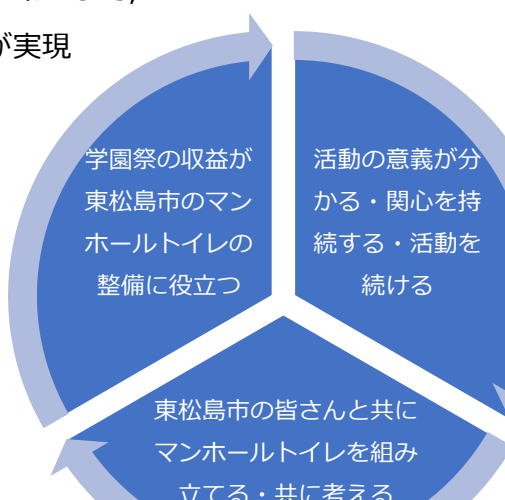
記入日	2019 年 12 月 28 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	29 (被災地等, 校外での防災学習)
タイトル	防災「支援」教育—東松島市に寄付を届けよう (東松島市長表敬訪問・寄付贈呈式)
実践担当者のお名前	京 (社会科・防災係)
実践にかかった金額	ほぼ 0 円 (寄付金は別)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019 年 7 月 23 日 9 時 00 分～10 時 00 分
実践の所要時間	60 分
実践の運営側で動いた人の人数	9 人: 教員(5)・東松島市役所職員(4)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	38 人
実践を行った都道府県と市区町村	宮城県東松島市
実践を行った具体的な場所	東松島市役所 会議室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	【目的・目標】 生徒が自らの活動（学園祭の収益や募金活動）で得た寄付金を、繋がりのある自治体や団体に直接お届けすることで、達成感を得ると共に、被災した地域への意識や関心の持続を図る機会とする。また、お預かりした寄付金を届ける役割を担うことで、責任感を持たせる。場合によっては、目的を定めた寄付をすることで、寄付の使い道にも関心を持つ。「支援教育」の一環として、本プランを位置づける。 【背景・経緯】 日本では、寄付文化がまだまだ根づいていないと言われるが、ミッション校である本校では、募金や物の支援をする文化が根付いている。その一方で、「良いこと」であるという認識があっても、どこに送るか、実際にどのように役立てられているのかといったところまで生徒は意識していないこともある。
------	--



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	(1) 本プランの内容 毎年、被災した地域への支援を学園祭の意向マンホールトイレの活動で繋がりができた東松島市に、本校の学園祭の収益（昨年度のもの）をお届けした。 (2) 贈呈式のプログラム 東松島市側で贈呈式を企画してくださり、生徒にとっては貴重な社会勉強の機会となった。 1. 生徒代表による挨拶 2. 寄付金贈呈…2018 年度学園祭収益の一部を マンホールトイレの整備のために寄付 3. 東松島市 市長・教育長挨拶 4. 記念撮影 5. 閉会   ・今年度の学園祭実行委員の生徒から寄付をお渡しした。 ・渥美市長からは、東松島市の復興の現状や取り組みについて、お話を伺いました。	



得られた成果	・直接、感謝の言葉をいただいたことで、今年度の学園祭で頑張るモチベーションが高まった。 ・防災「支援」教育の一環として、 良い活動のサイクルが実現できた。 学び・活動・ 支援のサイクル▶  【メディア等への掲載】 「東松島市広報より」「石巻かほく」「石巻日日新聞」に贈呈式様子や生徒のインタビューの記事が掲載された。 ▼「市報 ひがしまつしま 2019年8月15日号」p.7に掲載 http://www.city.higashimatsushima.miyagi.jp/index.cfm/16,16677,c,html/16677/20190813-165946.pdf	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性	かなり かなり 大いに
課題・苦労・工夫 工夫	・学校側からの挨拶や寄付の贈呈を生徒の代表に任せた。このような機会のときには、教員はバックアップに回り、できるだけ生徒を主役に行っている。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	東松島市役所 小田島 毅 氏
関係者の説明	東日本大震災でマンホールトイレの運用を担当した。現在は、東松島市の危機対策専門員を務め、マンホールトイレの啓発・普及活動のため、各地で講演や指導を行っている。
関係者の連絡先	東松島市役所：0225-82-1111（代表）



記入日	2019 年 1 月 16 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	30 (校外・被災地での防災学習④)
タイトル	わくわくしながら, 防災研究の最先端に触れよう! (防災科学技術研究所での中 1 防災社会科見学)
実践担当者のお名前	京 (社会科・防災係)
実践にかかった金額	30 万円未満 (主に交通費 (バス借り上げ・高速代))
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 11 月 16 日 10 時 00 分～15 時 00 分
実践の所要時間	5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	23 人: 防災科学技術研究所(15)・教員(9)
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	防災科学技術研究所
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	生徒の発表を聞いてくださる専門家 (防災科研), 授業・ワークショップ用教材 (プリント・パワーポイント, 映像資料), 文具 (模造紙・付箋・プロッキー・コピー用紙), ・見学地までの交通手段 (大型バス 2 台借り上げ)

達成目標	【目的・目標】 入学後, 初めて防災の授業を受ける中 1 が, 防災に関するアイデア・提案を自ら考え, 社会科見学で専門家の前で発表する。防災に対する生徒自身の抵抗感を無くすこと, 及びコミュニケーション能力の向上を目指す。限られた授業時間数で実践を行い, 効果を上げる。 【背景・経緯】 昨年度に続き, 防災教育チャレンジプランの実践校として, 防災科学技術研究所にご協力いただいた。元々実施していた社会科見学に「防災の視点」を入れるようになった。防災社会科見学は, 中 1 の生徒が受ける最初の防災授業であり, 以下のような目標を立てて, 防災教育の初期の段階で, 生徒の意識の転換を目指している。
------	---



	①防災は「大人から教えてもらうもの」「誰かにやってもらうもの」ではなく、「自分で考えるもの」「私自身が行動するもの」と捉える。 ②生徒が持つ防災に対するマイナスのイメージや抵抗感を取り払う。 ③様々な視点を取り上げることで、「1つの答えを覚える」ではなく、「多様な防災選択肢を持つことが大切」という認識を持つ。 ④自らの考えを発信する面白さを経験し、学びの意義を見出す。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	打ち合わせ 第1回打ち合わせ（7月30日）@防災科研東京会議室 第2回打ち合わせ（11月16日）@目黒星美学園中学高等学校 防災社会科見学当日 午前中は施設見学（2チームに分かれて見学） ①防災科研紹介DVD視聴 ▼②地震ザブトン 代表者が体験した。見ている生徒も様々な揺れの恐ろしさを実感できた様子だった。 ▼③大型耐震実験施設・④大型降雨実験施設の見学 迫力ある施設に、圧倒されていた。	



▼⑤Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室



楽しみながら多くのことを学んだ。自然災害と、理科への関心と理解が高まった。

昼食（自然災害情報室で「防災キャンプ」の実物展示を自由見学）

午後は、プレゼンテーションとワークショップ

⑥生徒からのプレゼンテーションと防災ワークショップ



前半の生徒からの防災プレゼンテーション【実践番号 05】は、代表の6チームの生徒が発表した。後半のワークショップは生徒全員が、グループに分かれ、防災科研の研究員・専門員の方がそれぞれのグループに入って下さった。40分と時間が短かったため、慌ただしくなったが、全員に発言のチャンスがあったので、良い経験となった。



防災ワークショップについて

今年度、本校のアドバイザーを担当してくださった三浦先生からいただいたアドバイスや情報を基に、教員が、生徒が話やすい（慣れている）ミッションの形にして、パワーポイントを作成した。特に、「避難」について生徒が考え、理解する機会とすることを目指した。

①「まさ家！族」を動かそう ※災害への危機感が薄いことを、生徒に分かりやすく「まさ家！族」とネーミングした。

▼ワークショップ用のパワーポイント

「まさ家！族」を動かそう！

次のような3人の人がいます。
まずは、発言に注目してください。

てきとうおにいさん



え〜？ 大雨？ 大丈夫だって。今まで何とかなったじゃん。ニュースで騒いでるだけでしょ。うちの辺りは平気平気。まさか自分が被害にあうなんて、ありえないねー。

いらいらおねえさん



もしどこかに避難しても、何もなかったら大げさだし恥ずかしいじゃない。みんなが行ったら私も行くからそれでいいでしょ。わざわざ自分から行くなんて時間の無駄よ。

あきらめおじいさん



ワシはもう年寄りだし、体を動かすのも大変じゃ。避難所に行っても迷惑だし、家の周りには川もある。どうせ助からないから家におくことにするよ。放っておいておくれ。

「まさ家！族」を動かそう！

どうでしょうか？

どうすればこのような人たちが、

- ①あらかじめ住んでいる場所の危険性を自分で確認し、
- ②災害時に安全を確保してくれるようになるでしょうか。

「まさ家！族」を動かそう！

話し合いスタート！
(10分)

- 今まで何とかなった。まさか自分が被害にあうなんて。
- 大げさだし恥ずかしい。みんなが行ったら私も行く。
- 行っても迷惑。どうせ助からない。

- ①あらかじめ住んでいる場所の危険性を自分で確認し、
- ②災害時に安全を確保してくれるようになるか。

プラス「全員が避難所に行く」のも困ります。
以上を踏まえて、楽しいアイデア・素敵なアイデアを！

▲付箋にどんどんアイディアを書いて、模造紙に貼っていった。

②未来の防災を考えよう「当然、全員安全確保！」

▼模造紙にペンで一人ずつ宣言を書き込んでいった。



未来の防災を考えよう！ 皆が次のように考えて行動する社会が理想です。 まずは、発言に注目してください。	誰でもしっかりぼうさい  防災？当然やっています！ 自分のために備えるのは当たり前だね！ 誰もが「未来の被災者」になる可能性があるからね！ 備えあればうれしいなし！	
誰もが早めに安全確保  猛烈な台風が近づいているから、今回も私は早めに親戚の家に避難しよう。 前回は何事もなく良かったけど、こういう時は必ず避難だね。	未来の防災を考えよう！ こんな未来を実現するには？ ①こんな社会を実現するために、できることを考えよう。 ②「誰かがやること」でなく「私にできること」を考えよう！ ③小さなこと、身近なアイデアでOK。	
得られた成果	- 最先端の研究に触れると共に、生徒は自分で考えて発信する経験もあり、充実した社会科見学になった。防災科研の方が生徒たちの活動に温かくご協力くださったことで、生徒たちの防災に対する主体性と意識が高まった。知識と理解を深めることもできた。 - 昨年度、防災社会科見学を経験した生徒から、台風19号の後に「防災の活動に取り組みたい」と申し出があった。時間が経ってから経験や学びが活きてくることがあると改めて分かった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	「新たに水害学習を含む授業づくり」「今年度ならではのミッション」「プレゼンテーション指導」「当日ワークショップ案」と新規に考える企画が多く、教員の準備時間が足りなくなり、特に直前は慌ただしく準備することになってしまった。企画のノウハウの活用と、教員間の状況共有・協力体制を早めに確立することが大事。 - 学校外の協力者の方に、教育方針（＝生徒自身の学びのために、大人が「教えよう」ではなく、「生徒のアイデアを聞きたい」という姿勢を持つこと）へのご理解とご協力をお願いする。「ご協力くださる大人」を探すことは、企画を継続する上での課題である。	